

◆◆もの言わぬ動植物が教えてくれること◆◆

神社やお寺、あるいは大自然の中にいると、とても気持ちが落ち着くのはなぜでしょう？

そこには、天地草木の命が凝縮していて、私たちがまたその中のひとつと感ずることができるからではないでしょうか。この宇宙の中でそれぞれが精いっぱい幸せになろうとしているように見えて、自分中心の悩みやとらわれから、ひと時、解放されるからではないでしょうか。

ワカバ堂にとって、身近なササとマツはそのシンボルみたいなものです。

1) クマザサ

滋賀では高島市生杉のブナ原生林の下草としてたくさん見られます。思い出ただけで、尾根筋を吹き渡る風にサラサラと葉っぱがこすれる音が聞こえてきそうです。



ササは心肺系(循環器と中枢神経系ならびに皮膚呼吸器系)に良いとされ、のどの痛みや神経質な子の疳の虫に良いとされました。

では、クマザサがあれば、心肺系の病気は「シンパイ無しか?」という自然はそんなにアマアマじゃあないので、ワカバ堂は松寿仙を予防と養生の一助としています。薬味が甘・淡で、味が穏やかで長期間安心して服用できるのが長所です

比叡山系のある不動尊の霊場に、1頭の甲斐犬がいました。冬でも、バケツの水が底まで凍る戸外でずっと飼われていましたが、「寒かろう」と犬小屋に毛布を入れてやっても、嫌がって蹴り出してしまふ犬でした。16歳まで、野山を元気に歩き回っていました。

訪れる信者や、散歩で通る人も多く、人気者でしたが、週末と日曜日は、ハイカーの弁当の「おすそ分け」が重なって、やや飽食気味になります。散歩に連れ出すと、歳とは思えない力でグングンと私を引っ張って走るのですが、そんな日は、ササの葉を際限なくむさぼるのです。

動物は本能で体を修復するクスリを知っているのですね。



2) アカマツ葉

クマザサの薬性が「涼」に対して、アカマツは「温」なので、松寿仙の薬性は、全体としてどちらにも偏らない「平」となっています。

ところでマツは、写真のように落葉します。そして、年が明けるとほとんどが新しい葉っぱに入れ替わっています。松もユズリハも入れ替わるからめでたいので、世代継承を寿いで正月の飾りに使います。

秋に、古い葉はワキから落ちてゆき、テッペンから新しい葉が生えてくるのです。

テッペンから・・・。

だから、ワカバ君は松葉の搾り汁を一生懸命飲んでます。

真面目な話をしています。

余談になりますが、ホトギスは「テッペンカケタカ」と鳴くらしいです。You Tubeを見ましたが、ワカバ君にはちっともそう聞こえません。https://www.youtube.com/watch?v=Zm9-TaWCWRM

多分そう聞こえた人は、ワカバ君よりもっとハゲているのだと思います。

因みに、ワカバ君はホトギスの鳴き声があると、「クウタロカ!」と思います。(ー;)